

小児看護専門看護師の活動



京都大学医学部附属病院
小児看護専門看護師
川勝和子

患者さんの了承を得て写真を掲載しています

小児看護専門看護師とは



専門看護師
の紋章

◇日本看護協会認定の資格

- 小児看護専門看護師の認定は**2002年**から始まっています
- 全国に288名います（2021年12月時点）
- **6つの役割**（実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究）を通して、看護師や多職種と協働しながら、**子どもの看護・医療の質の向上のために活動する看護師**です

◇主な活動場所 がん相談支援センター

こども医療センター、小児科外来

— 実践 —

子どもと家族への支援

- ・ 子どもに対する病気や治療の伝え方
- ・ 復園、進学、復学する子どもの支援
- ・ 子ども・家族の意思決定支援
- ・ 親自身が病気であることを子どもにどのように伝えたらよいかの支援



小児がんになった子どもに病気の影響で体に起こっていることを本を用いて説明
本人の疑問に答えながら、治療を頑張れるように支援

造血細胞移植後長期フォローアップ 看護外来の紹介

- 2017年1月より開設
- 場所：小児科外来（外来棟3階）
- 診療報酬：300点（患者さんの負担は、3割負担の場合、900円/月）
- 退院後の身体症状のトラブル予防・軽減、心身のサポートなど療養生活支援を行っています



— 相談 —

医療スタッフへの支援

子どもと家族へのケアはとてまやりがいがある反面、発達段階や家族の特性など個別性が強く、関わりに困難を感じる場面もあり、こども医療センターや他病棟のスタッフから相談を受けています

がん看護CNSよりがん患者さんの子どもに対する不安に介入してほしい

患者さんと面談を実施
患者さんの子どもへの関わりでよいところをフィードバックし、強化してほしいところを伝えた



成人診療科の外来看護師より発達障がいのあるAYA世代患者さんが皮下注射を拒否して困っている

発達障がいのある患者さんの特性、処置時における患者さん・家族への関わりに関する勉強会を開催

— 調整 —

子どもと家族をとりまく社会・保健・福祉・教育を理解し、関係する制度、政策などの状況をふまえて関連部門と協働し、子どもと家族に必要な看護・医療が提供できるように調整します



医療的ケアが必要な子どもが退院にあたって、医師、病棟・外来看護師、保健師、訪問看護師、SW、家族と話し合いの場を持ちます

— 倫理調整 —

病気の子ども、家族の思いをサポートします

何を知りたい？
どう過ごしたい？
やりたいことは？



子どもに状況をどう伝えたい？
家族でどう過ごしたい？



ずれはないか？

子どもと家族にとってよりよい時間を過ごせるように医療者間でカンファレンスで検討しています

— 教育 —

- 子どもと家族へのケアに必要な知識や技術について院内外で教育を行っています
- 京都大学人間健康科学科3回生の小児看護学演習の講義を非常勤講師として担当しています
- 小児がん拠点病院の取り組みの一つとして小児がん看護研修を毎年開催しています



学生さんの了承を得て写真を掲載しています

— 研究 —

- スタッフへの研究指導も行っています
「乳幼児期に肝移植を受けた子どもの家族が退院後に抱く不安・ニーズについて」を
発表しました
- 「小児がんの子ども・家族に関わる
看護師のストレスサー尺度の開発」を
投稿しました

